武庫川女子大学附属総合ミュージアム　展示レポート 2.

Mukogawa Women's University Museum

ミュージアムコラム

武庫川女子大学附属総合ミュージアムでは、所蔵する国の登録有形民俗文化財「武庫川女子大学近代衣生活資料」全 9,092 点から季節の主題に沿う資料を選び、一年を通じて学術研究交流館（IR 館）1 階ロビーにて展示をおこなっています。

2023 年度秋季企画

絵更紗きぶん。

2023 年 9 月 8 日（金）～ 12 月 15 日（金）

2023 年度秋季展では、竹尾千代の絵更紗の作品とそれにまつわる資料を展示します。
竹尾千代は昭和の時代の阪神間に暮らした女性で、夫亡き後趣味として絵更紗を制作しました。絵更紗の創始者元井三門里（もといみどり）の作品を忠実に再現した作風で、2011 年に御遺族より計 381 点の資料が当館に寄贈されました。

本学には、博物館などで資料を扱う専門職「学芸員」の資格を修得するコース「博物館学芸員課程」があり、本ミュージアムでは実習の指導をおこなっています。
「絵更紗きぶん。」展は、今年度学芸員課程専攻の学生 26 名のうち 6 名が、ミュージアム所蔵の文化財資料と設備を実際に使って企画し、展示したものです。

本展示は、作品が制作された 1970 ～ 80 年代に、現代に生きる自分達のファッションとは異なる豊かで洗練された和装の文化があったこと、またその手仕事のあたたかみを、学生たちの感性で解釈し伝えるものとなりました。1950 年代には本学被服学科で絵更紗の実習講義が開講されていたことも、彼女たちには興味深い驚きでした。
ミュージアムが所蔵する絵更紗の資料を、学生による展示表現とともに楽しんでご覧いただけましたら幸甚です。（森）

企画・展示をおこなった実習生

展示作業の様子

絵更紗の技法

左　名古屋帯「カキツバタ大柄唐草文様」
　　主な技法　ろうけつ染め
右　半幅帯「片変わり丸文様」
　　主な技法　芋版
下　巾着　主な技法　芋版

絵更紗では手描き、芋版、型染めなど様々な技法が用いられます。ろうけつ染めでは、防染のために置いたろうの割れ目からしみ込んだ染料が独特の効果を浮かびあがらせています。芋版では、同じ柄の繰り返しと色と柄の微妙なずれが、素朴でリズミカルな美しさを醸しています。

下絵と作品

上　扇子「草花文様」とその下絵
下　名古屋帯「輪つなぎ文様」とその下絵

ミュージアムでは竹尾千代の作品と併せて下絵や道具類、手本とした元井三門里の原画帳などを収蔵していますが、ここでは、作品とその元になった下絵との対比をご覧いただきます。

絵更紗とその展開

上　　色ちがいの帯と巾着
　　同じ図柄でも色により印象は大きく異なります。
下左　竹尾千代の道具　絵具皿　乳鉢と乳棒
　　顔料調合のために使用したものと思われます。
下右　絵更紗実習授業の写真
　　1950 年代、被服学科で開講された授業風景です。
　　元井三門里氏の娘登志氏が講師に招かれました。

次回の展示は 2024 年 1 月を予定しています。